

◆◆特集◆◆

★『災害対策等緊急事業推進費』平成30年度第1回募集について★

(平成30年4月2日～5月7日予定)

(国土交通省 国土政策局 広域地方政策課 調整室)

災害対策等緊急事業推進費は自然災害により被災した地域や重大な交通事故が発生した場所などで、年度内に緊急に行う再度災害防止対策や事故の再発防止対策に配分することができる予算であり、例年、4月上旬から10月上旬まで3回募集しています。

平成30年度の第1回募集にあたり、制度概要や配分地区事例を紹介します。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★随時修繕していた市道と私有地との間の陥没部に

自動車が脱輪し損傷したとして道路の管理瑕疵が争われた事例★

〈平成28年8月25日 千葉地方裁判所判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、控訴人（原告）が運転する自動車が、舗装された市道と未舗装の私有地との間の陥没部（深さ15cm）に脱輪してバンパー等が損傷した事故について、道路の管理瑕疵があったとして被控訴人（道路管理者）に対し国家賠償法2条1項に基づく損害賠償請求がなされたものである。原審は道路の管理瑕疵を認め、過失割合を控訴人7割、被控訴人3割としたところ、控訴人敗訴部分に不服を述べ控訴。

【判決要旨（一部認容）】

被控訴人は、本件陥没部分について随時修繕は行ってきたが、その発生等に注意を促す措置は講じてこなかった。そして、本件事故現場である交差点は鋭角でやや大回りに左折せざるを得ず、その際本件陥没場所付近を通過することや、街灯が少なく視認状況が良好ではないこと等を総合すれば、被控訴人による道路管理に瑕疵があったというべきである。

(原審は、控訴人が事故現場の道路状況を十分知っていた、過去に事故の報告例がなく住民からの苦情もなかった等から原告に主たる責任があるとしたが、) 上記視認状況や道路構造から、控訴人がヘッドライトの照射により本件陥没の存在、形状等を確認できるのは本件交差点に進入し左折を開始した後とならざるを得ないことを考慮すると、控訴人に過失無しとはいえないが、本件事故を回避することが容易であったともいえないため、過失割合を被控訴人7割、控訴人3割と認めるのが相当である。

◆◆TOPICS◆◆

★東関東自動車道水戸線（鉾田IC～茨城空港北IC）の開通とその整備効果等★ （NEXCO 東日本 関東支社）

東関東自動車道水戸線の茨城県内の未開通区間である潮来IC～茨城空港北IC（約39.7km）のうち、鉾田IC～茨城空港北IC（約8.8km）が2018年2月3日（土）に開通しました。本稿では、今回開通区間の概要とともに、鹿行地域から北関東・東北方面への高速道路ネットワークの拡充による開通効果への期待についてご紹介します。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★北陸地方の降雪と取組み★

（北陸地方整備局 道路部 路政課 佐瀬健一）

平成30年1月以降、数年に一度と言われる寒波が続けて到来し、日本海側に大雪をもたらしました。雪には慣れている地域であっても、今冬は大変苦労した大雪でしたが、雪国の知恵と北陸地方整備局の取組みについて紹介いたします。

.....

★うどん県における腰の強い道路整備について★

～交通事故抑止から地域独自の新たな道路活用まで～

（香川県 土木部 道路課）

香川県（うどん県）では、道路密度は高いが、人口当たりの交通死亡事故が全国的に多いことなどが課題である。これまでに交差点カラー化などの交通死亡事故抑止対策を行い、一定の効果が上がっている。

今後、さらなる安全・安心な道路整備を行うとともに、観光面にも資するサイクリングルートなどの整備にも道路整備を展開する。

.....

★高松市の渋滞対策について★

～福岡町三丁目交差点の交差点改良～

（高松市 都市整備局 道路管理課）

本市の臨海部を東西に結ぶ都市計画道路高松海岸線のうち、詰田川下橋の西詰にある福岡町三丁目交差点の東側の片側2車線の市道では、右折専用車線がなく、渋滞対策を行う必要がある交差点の一つでした。

この対策実施のため、香川県や香川県警と協議し、交差点のコンパクト化にあわせ、右折ポケットを設け、現在効果検証中です。

◆◆編集後記◆◆

毎年、冬になるとインフルエンザや風邪が流行します。これまでインフルエンザに感染したことはありませんが、幼少期より喉が弱く風邪をひきやすい体質のため、手洗いやうがい、マスク、適度な加湿や換気などの予防対策を心がけています。今冬は、これまでの予防対策に加え“金柑”を1日1粒食べて免疫力を高めることにしました。そのおかげか、今のところインフルエンザや風邪とは無縁の日々を過ごすことができています。

金柑は、古くから咳や喉の痛みに効果的な漢方薬として用いられ、「風邪が流行ると金柑が売れる」といわれ重宝されてきました。そのため、のど飴の原材料として用いられることが多いようです。直径2～3cmほどの小さな実は、柑橘類の中でも珍しく皮ごと食べることができ、ビタミンCをはじめとする身体に嬉しい成分が凝縮されています。特に、皮には、免疫力向上に必要なナチュラルキラー細胞を活性化させるβ-クリプトキサンチンという成分が多く含まれ、また、抗酸化作用の高いポリフェノールや疲労回復効果のあるクエン酸などの栄養素も豊富に含まれています。ちなみに、皮から漂う爽やかな香りに含まれる成分（リモネン）には、ストレスを和らげ心を落ち着かせるヒーリング効果があり、心にも優しい作用があるようです。

免疫力を高めるためには、皮ごと食べることがポイントですが、生のままでは皮が苦く果肉の持つ強い酸味が苦手なため、“はちみつ漬け”を作り置きすることで、1日1粒を実践することにしていきます。作り方は、保存容器に軽く茹でた金柑とはちみつを1：1の割合いで入れ、冷蔵庫で1週間ほど漬け込めば出来上がりです。はちみつも免疫力向上の効果が高い食品のひとつで、抗菌作用や喉の乾燥を防ぐ作用があるため、この2つを組み合わせることで相乗効果が期待できます。また、ヨーグルトに混ぜても美味しいことから、わが家でも好評を得ています。

このように、金柑の実は免疫力の向上に役立ちますが、実をつける前には小さく白い花を咲かせるので、観賞用としても楽しむことができます。2017年3月の編集後記でもご紹介しましたが、現在、自家栽培しているアロエに加えて、いつか自家栽培に挑戦し、自分で育てた金柑を食べてみたいと思います。

春の訪れはもう目の前ですが、朝夕には寒さを感じる日もあるため油断はできません。これからも1日1粒の金柑を食べて免疫力を保ち、インフルエンザや風邪を遠ざけたいと思っています。(K)